

今期営業益45%増目指す

高付加価値製品を拡販

古河電工産業電線 取用の電線は量を追わず収益を重視する。

（本社・東京都荒川区、社長・松本康一郎氏）

同社の事業はLMFCや産業用のゴム被覆電線など機能線事業と、建設用主要3品種（IV・CV・CVV）

る提案の効果も出てい
る。
汎用線については収
益を重視した供給で数
量は減るものの、特長
ある製品群としてアル
ミ導体を採用した電線
を拡販。ハイブリッド
BH（ビル・ハーネス）
などに力を入れる。工

場であらかじめ建物の
構造に合わせて組み立
てた電線で、上下方向
の太い幹線ケーブルを
銅から軽量なアルミに
代替したもの。施工性
の高さや建物にかかる
負担を減らせる特長を
PRする。

は2018年度の営業利益を、前年度比45%増を目指す。売上高は同5%増の312億円が目標。配電盤内の配線に用いる可とう性難燃ポリエチレンケーブル（LMFC）や風力発電、鉄道用ケーブルなど高付加価値品の販売を伸ばす。建設・電

を中心とする汎用線事業の2本立てで構成。

機能線事業では高い柔軟性で配線作業性に優れるLMFCの販売

が、建設関連市場の伸びを受けて好調に推移している。また風力発電向けのケーブルは発電機のタワー向けや羽根の後部にあるナセルと呼ばれるボックス向けの内部配線が順調。

ここでは同じ古河電工グループの送配電機材メーカー古河電工パワーシステムズ（本社・横浜市青葉区、社長・西山秀美氏）が製造す

るプラグインコネクタと電線をセット販売し、配線作業性を高め

